

せんぱい



千葉県市川市「行徳鳥獣保護区」営巣の様子

## CONTENTS

新年のごあいさつ	2
全内漁連開催の各会議について	
監事會、総務委員会及び理事会を開催	3
カワウ対策の現地検討会を開催	3
みんなでやるぞ内水面事業の現地調査を実施	4
第66回 全国内水面漁業振興大会を開催	6
第2回全国事務担当者研修会を岡山県で開催	10
カワウ被害対策におけるドローン研修会を開催(和歌山県)	13
行徳湿地(千葉県市川市)におけるカワウ繁殖抑制試験	14
全国鮎養殖漁業振興懇話会	16
第8回シジミ・シンポジウム in 松江が開催されました	17
秋の叙勲・水産功績者表彰	18
ささやかなのぞみ	19
我が水産試験場(福井県水産試験場内水面総合センター)	20
気になる研究結果(国研 水産研究・教育機構水産技術研究所)	22
内水面漁協(第49回)	24
愛しきアユ(第52回)	25
内水面養殖事業者向け補償制度のご案内	26
全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～	26
静岡県内漁連が農林水産大臣にカワウ食害対策を要望	26
漁場生産力・水産多面的機能強化対策支援事業	27
令和7年度アユ種苗の河川放流実績調査報告	28
日光支所から	29
新会長の紹介	30
業務日誌	30
職員のつぶやき	31
新聞記事から	31
編集後記	31

## 令和8年度の機関誌ぜんない購読料金の取扱いについて

令和8年度は、下記の通り金額の改定を行いますのでよろしくお願ひいたします。

年4回発行している本誌購読料については長い間価格を据え置いてきましたが、購読料金や広告料の減少・諸経費の高騰により、理事会で協議の結果、令和8年度から値上げすることで了承されました。ご迷惑をおかけいたしますがご理解くださいますようお願いいたします。

## 【年間購読:消費税10%込み、送料はサービス】

漁業者(会員漁連の傘下漁協組合員)

3,000円 → **3,300円(変更後)**: 本体価格3,000円+消費税10%

漁業者以外

3,200円 → **4,400円(変更後)**: 本体価格4,000円+消費税10%

## 【単品:消費税10%込み、送料は別途】

漁業者(会員漁連の傘下漁協組合員)

750円 → **825円(変更後)**: 本体価格750円+消費税10%

漁業者以外

800円 → **1,100円(変更後)**: 本体価格1,000円+消費税10%

全内では、クリアファイル・パンフレット・ポスターの普及啓発用資料を作っています。  
申込は各漁連でのとりまとめをお願いしています。申込締め切り後に新たに発注する場合には、単価が高額になりますので、初回申込でまとめて注文くださるようお願いします。詳しくはお問い合わせ下さい。

クリアファイル図案 A4  
(表・裏)

パンフレット図案 (三つ折り6面)

ポスター図案  
(B3判)

機関誌 **せんぱい** 第79号  
全国内水面漁業協同組合連合会機関誌  
令和8年1月発行

発行人: 全国内水面漁業協同組合連合会  
代表理事長 谷 公一

編集: 本所 機関誌編集委員会

発行所: 全国内水面漁業協同組合連合会

〒101-0044  
東京都千代田区鍛冶町1丁目10番4号 丸石ビル4階  
TEL: 03-6260-9595 FAX: 03-5296-2030  
ホームページ: <https://www.naisuimen.or.jp>

印刷: 鵜川印刷株式会社

〒923-0053 石川県小松市河田町丁33番地

## 令和7年度 アユ種苗の河川放流実績調査報告

全内では、傘下40都府県内水面漁連を通じて、アユ種苗の放流実績調査を毎年度実施しています。7年度はアユを放流した465漁協のうち、404漁協から詳細な回答が得られました（回答率87%）。ご協力いただき、ありがとうございました。

### 河川放流量について

令和7年度の放流量は585・11トンで、6年度の658・28トンより73・17トン減少しています。今年度、放流量が減少した理由としては、全内を脱退した漁連2団体、アンケート未回答1団体、漁連を脱退した漁協放流分などが上げられます。各種苗の占める割合は、琵琶湖産16%、人工種苗75%、海産・河川産9%という内訳になりました（図）。

### 本年度の種苗について

#### \*種苗の質

昨年度と同様、各種苗とも『概ね良好』と回答した漁協が6割近くありました。

中には、放流時は大きく活力があつたが、後半になって大きいものが少ないので、積込時にただれている稚魚が多くみられた（供給時の網寄せ、積込時のハンドリングによるただれと思われる）、放流時の水温差が大きく多数死亡した等、マイナス面の報告もありました。

#### \*放流種苗の種類

『自県産の人工種苗や海産・河川産を主体に行う。』の回答が6割であるのは、数年変化がありません。今年

は、琵琶湖産種苗が不漁だったことから種苗の確保ができず、納入が遅れたり、別の種苗に変更したりして対応したとの回答がありました。

種苗の種類については、琵琶湖産は放流が可能であ

れば放流したいが、県の指導で県産しか放流できないなどの意見もありました。

放流する種苗の種類や質以前に、「昨年同様に高温気候・少雨のため水量の減少および渴水などの河川環境の悪化、効果的対策のないカワウ・シラサギなどの鳥害、アユ遊漁者の減少による遊漁券の売上減少などで、放流は組合にとってはリスクが大きい」、「現状の河水状況ではアユの成長は見込めないため、稚鮎放流は最小限にとどめている」などの大きな課題があることが報告されました。

例年同様に、『種苗の生産、出荷に際し、魚病検査を徹底して行うべきであり、漁協レベルで対応しきれる問題ではない』という回答が最も多く、その他の回答とびかける』など、他から持ち込まないよう強化していることが報告されました。

また、魚病の他に「7、8月の猛暑で水温が上昇し、鮎死して流れる事象が起きた／・8月上旬頃、釣り人よりフラフラして鮎が流れてくるとの情報があつたが、下流は水量少なく猛暑が何日も続いていて水温が28度近く流下途中で斃死し下流域まで流されたと思われる／・天候はもとより増水しない濁水、水温上昇、川床工事、カワウ等の悪影響がある／・後半にエドワジ

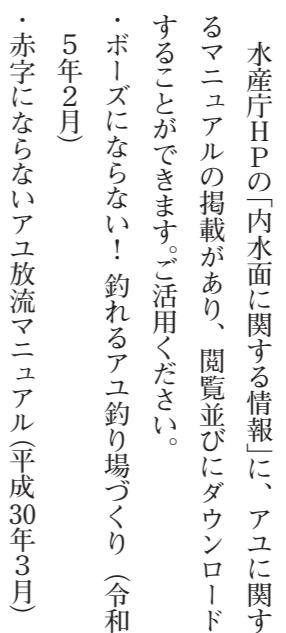


図 アユ種苗別河川放流実績（過去10年の実績）

エラが少量発生した』など猛暑の影響による高水温や、異常気象による豪雨被害などによる河川環境の悪化で放流種苗に被害がでている旨のコメントが多く報告されました。

### 効果的なアユ放流について

水産庁HPの「内水面に関する情報」に、アユに関するマニュアルの掲載があり、閲覧並びにダウンロードすることができます。ご活用ください。

・赤字にならないアユ放流マニュアル（平成30年3月）

5年2月

・ボーズにならない！釣れるアユ釣り場づくり（令和

5年3月）

・赤字にならないアユ放流マニュアル（平成30年3月）

5年3月

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年4月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年5月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年6月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年7月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年8月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年9月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年10月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年11月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年12月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年1月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年2月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年3月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年4月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年5月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年6月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

5年7月）

・ボーズにならないアユ釣り場づくり（令和

## 日光支所から



令和7年9月25日に、日光湯元ビジターセンターにおいて、標記の検討会に参加しました。

この検討会は、環境省日光国立公園管理事務所が事務局となり、湯元自治会や温泉旅館組合、栃木県自然環境課、日光市の観光課など検討会メンバーの13団体が参加、宇都宮大学の建築都市デザイン学科をアドバイザーに迎え、奥日光の地域の好循環・魅力アップに向けた実証などについて検討しました。

環境省では、湯元園地における滞在空間の魅力づくり・上質化を図るために、実証事業を行っており、今後の公共用駐車場等の再整備に併せて、滞在環境向上について利用者の動向や意向を反映していくためのアンケートの実施を検討しました。

検討の結果、さかなのつかみどりイベントを開催して参加者にアンケートを配布し、意見の集約を行うこととなりました。



つかみどり会場の準備をする様子

10月4日、湯川（白根沢）河川特設会場において、奥日光湯元地区における魅力向上に向けた検討会が主催した、（第1回）と、実証事業への協力

### 奥日光湯元地区における魅力向上に向けた検討会（第1回）と、実証事業への協力

当日は、参加者にアンケートへの参加をお願いし、白根沢のつかみどり体験では、捕った魚を持ち帰りする他、炭火焼き体験も行いました。炭火焼きには時間がかかることから、その間は、奥日光を体感できる足湯や源泉などへの観光を促し、奥日光の魅力を発信するための協力をしました。

湯川・リバーコーリーンと懇談会

今後も、検討会や実証事業への協力を通して奥日光の地域の好循環・魅力アップに協力を行っていきます。

10月4日、湯川（白根沢）河川特設会場において、奥日光湯元地区における魅力向上に向けた検討会が主催した、「さかなのつかみどり」に日光支所が協力をしました。

当日は、参加者にアンケートへの参加をお願いし、白根沢のつかみどり体験では、捕った魚を持ち帰りする他、炭火焼き体験も行いました。炭火焼きには時間がかかることから、その間は、奥日光を体感できる足湯や源泉などへの観光を促し、奥日光の魅力を発信するための協力をしました。

湯川に感謝後、10月5日に、釣り人と協働で「湯川・リバーコーリーンと懇談会」を行いました。水辺に木々の多い湯川では、枝先に釣り糸がからむことが多い、川の中に入ったり木に登ったりしてゴミの除去作業を行う必要があります。湯川に感謝し水辺環境を守るために、紅葉狩りやハイキングに来る方々に綺麗な湯川や戦場ヶ原を楽しんでいただきました。当日は赤沼茶屋に集合、湯川の清掃を実施し、午後は懇談会を行いました。日光支所から今年度の釣魚者数や釣り場環境などの変化と今後の復旧工事の予定などの報告を行いました。釣り人から今後のイベントの開催方法の要望や釣果報告があり、有意義な意見交換会となりました。